

# ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責／園長 石川照代）



「いまも、ちまこくくれるかな」

いきなりですがクイズです。昨日の朝の幼稚園の前の横断歩道でのことです。標題のセリフは、誰が言ったでしょう？

- ①保護者（送迎者）
- ②子ども
- ③園長

3人の誰が言ったかによって、そのシチュエーションと意味は大きく違います。

①なら、例えばお母さんが、自分の子どもに対して、横断歩道では「トントン止まれ」をした上で、具体的にはどこに注意を払うべきかを教えていることになるでしょう。③なら、それを園長が老婆心を發揮して代わりに教えていることになります。どちらも、その子どもには未だ「近づいてくる車に注意を払う力」は身に付いていないとみていることとなります。だから毎朝、具体的な場面で丁寧に教えているわけです。これは良いことで、必要なことです。

しかし、私が目撃したのは②でした。年少クラスの子が、お母さんに促されたわけではなく、自然にそうつぶやいたのです。その時、私や守衛さんはいつものように車を制止する動作をしていたのですが、その子は、次第に近づいてくる車に目をやり、車が本当に止まってくれるのかに注意を払っていたのでした。そして、本当に止まってくれるのを確認して渡っていきました。この子は、横断歩道で止まることは勿論、さらにどこに目をやり、どう状況を判断すれば安全なのかを理解し、自分の意思で行動化していることとなります。

実際の横断歩道では、子どもが手を挙げて待っていても、止まってくれるとは限りません。信号が青になっても突っ込んでくる車はあります。止まってくれても、その脇からバイクが飛び出してこないとも限らないのです。

子ども自身の意識が、「園長先生が見ているから」「守衛さんが止めてくれるから」「トントン止まれをしなさいといけないから」「お母さんに言われたから」では、いつまで経っても本当の意味で安全に配慮する力が身に付いていないとは言えないでしょう。子どもの「力」を見極める洞察力が私たちには必要です。

これまで、歩行や横断についての話題をしつこいほどに取り上げてきましたが、今年度はこれで最後とします。子どもたちが一人たりとも命を落とすことなく成長していくことを、私は心から願っています。



## 「保護者アンケート」へのご協力をお願いします！

附属幼稚園の改革・改善に生かし、より一層質の高い教育を提供するために、毎年ご協力を頂いている保護者の皆様へのアンケート調査を、今年度も実施させて頂きたいと思っております。今年度は、この1年間の子どもたちの成長を最後まで見届けて頂いた上でご評価頂きたいと考え、年度末も押し迫った2月の末に実施いたします。

配付と回収計画は以下の通りです。なお、この件に関するお問い合わせは、全て園長までお願いします。

○配付2月22日（金） 回収締切2月26日（火）

また、アンケートは、家庭教育の振り返りにも繋がります。進級・進学・子育てに係るご相談があれば随時受け付けています。遠慮なくお申し出下さい。子育ての難しい時代、困りや悩みを抱え込まないこと、人に頼ることは決して恥ずかしいことではないことを申し添えておきます。

## 「桃色タンポポ」って知っているから？

この花との出会いはもう7、8年前。「タンポポは黄色（西洋タンポポ）か白（日本タンポポ）でしょ！え？ピンク色のタンポポなんてあるの？」種屋さんで見つけてびっくり！早速買って育てたら、その子ども達と育てました。茎のつき方は少し違いますが、葉や花の形はほとんどタンポポと同じでした。そして、桃色タンポポも植えてみるよ！（ヒントは花壇）

